神戸交通労働組合乗務支部との交渉議事録

１．日　時：令和８年１月 20 日（火）　10：00 ～ 11：45

２．場　所：名谷業務ビル３階変電区会議室

３．出席者：【当局】運輸課長、運輸係長、企画係長、運輸課係長（乗務担当）
　　【組合】乗務支部長、他５名

４．発言内容：別紙のとおり

【当局】　まず初めに、乗務支部からの予算要求書について回答させていただく。名谷・苅藻業務ビルの職場環境の改善をはじめ、要求のあった各項目について、令和８年度の予算はすでに決まっていることから、９年度に向け施設課等関係課と連携を取りながら状況を確認し、検討を進めてまいりたいと考えている。回答については書面でもお渡しする。

【組合】　承知した。職員の健康増進や安全運行のために仮眠環境の整備は非常に重要であると考えている。共通の認識を持って取り組んでいただきたい。

【当局】　当然そのように認識している。こちらとしても研究しながら進めてまいりたい。

【組合】　しっかりとした対応を要望する。

【当局】　次に、海岸線のダイヤ改正と仕業案、それに伴う各部署の勤務時間変更について説明と提案をさせていただく。また、以前にも提案させていただいた隔日勤務職場の時差仮眠案についても改めて提案させていただきたい。

【組合】　その提案の前に、海岸線のダイヤ改正に伴う仕業にも直結するため、現行の乗務付帯時分の見直しについて協議をさせていただきたい。

【当局】　内容を伺う。

【組合】　乗務員から外泊明けの起床時間から乗務するまでの時間があまりにも短いという声があがっている。個人差はあるが起床してから完全に覚醒していない状態で乗務するというのは、安全運行を維持する上で問題があると考えており、準備時分として一定の時間を求めたい。また、中休後半の出勤時間について、現行の設定時間では新たな掲示などの確認に要する時間が十分取れておらず、再考を求める。

【当局】　これまでの交渉の中、労使間で確認してきた内容である。しかしながら、実態として時間が足りないのであれば再度検証協議を行い解決する意思はある。一度持ち帰り検討する。

【組合】　もう一点、５月に意見の申し入れをおこなった谷上 SH ビルでの仮眠阻害について、正式な回答をもらっていないが進捗はどうか。

【当局】　正式な回答をしていなかったことに対してお詫びを申し上げる。現在この件については、経営企画課において検討しているところであり、運輸課としてこの場でお答えできることはない。進捗があれば報告させていただきたい。

【組合】　承知した。

【当局】　海岸線ダイヤ改正等について説明させていただく。また、改正に伴い運転指令区、苅藻乗務区の勤務時間も変更となるため、乗務員仕業と合わせて提案させていただく。

ダイヤ改正について簡単に説明すると、平日の朝夕ラッシュ時間帯の運行本数を確保しつつ、オフラッシュ時間帯及び土休日の運行間隔を現行の 10 分ヘッドから 15 分ヘッドに変更したものとなっている。

【組合】　折り返し時間が短い箇所が散見されるが、この時間で折り返し点検ができるのか。また停車時分などはどのように算出したのか

【当局】　詳細についての質問はダイヤ作成を行っている地下鉄運輸サービス課からの回答となる。この場ではお答えできないため、改めて回答する。停車時分などの算出については前回のダイヤ改正時と同様に試運転列車で作業時間を実測し、それを基に算出している。

【組合】　乗務員仕業について、行路表の資料を提示できないか。

【当局】　準備出来次第、資料を提供する。運転指令区、苅藻乗務区の勤務時間については、資料の通り付帯時分の実測値を基に算出した乗務員の出退勤時間に合わせている。

【組合】　乗務付帯時分に見直しがあれば時間が変わるのか。

【当局】　当然そうなるものと考える。

【組合】　一旦持ち帰り検討する。

【当局】　次に 4 月 1 日からの時差仮眠について改めて提案させていただく。前回支部から提示された問題点を勘案し、再検討した内容を説明する。基本的には 5 時間半

の仮眠時間を確保できるように設定しているが、名谷乗務助役の谷上泊りについては作業ダイヤの関係上、短い仮眠となっている。個別の内容については配布資料をお読み取りいただきたい。

【組合】　トラブルの発生時の取り扱いなど、明確に定めておく必要があると考える。作業ダイヤや職務内容については精査する時間が必要であるため、持ち帰り支部内で協議する。

【当局】　いただいた意見についてこちらも検討し、方針を示していく。

【組合】　承知した。再度確認するが、早急に乗務付帯時分見直し交渉の場を設けていただきたい。また、繰り返しの要望となるが仮眠環境の整備についても現場目線での真摯な対応を強く求める。

【当局】　乗務付帯時分の見直し協議について承知した。また、仮眠環境の向上に向け、前向きに検討を進めてまいりたい。